

編集後記

ここ山北では、みかんの出荷もピークが過ぎ、3年生は臨床総合実習を、4年生はいよいよ国家試験を控えているため、土佐リハ全体が独特の雰囲気をもった、忙しい師走の時期を迎えています。それぞれの先生方も大変忙しい時期にあたるのではないのでしょうか。そのような中、ここに土佐リハビリテーションジャーナルの第2号をお届けします。

昨年、土佐リハビリテーションカレッジの創立10周年を期に、本校関係者の研究活動を外部発信すること、論文発表の機会を提供することの2つを目的に発刊されたのが、この“土佐リハビリテーションジャーナル”です。しかし、第1号は残念ながら本校講師陣の論文ばかりとなってしまう、発刊時の目的の半分しか果たせていませんでした。言わば“未完のジャーナル”となってしまうました。ですが、今回の第2号では本校の講師陣の論文に加え、卒業生の論文が1報含まれており、本来の2つの目的を果たすと同時に、より内容の濃いものにまとまっていると思います。

卒業生といえば、最近は両学科の卒業生ともに、地元開催の高知や四国の学会はもとより、全国学会や各地での活躍の声が聞こえてきます。これには我々講師陣も感化されています。今後、本ジャーナルにそういった多くの卒業生の論文が掲載されることを祈っています。

土佐リハビリテーションジャーナル編集委員会

編集顧問
編集委員

瀬戸勝男
淡野義長 (作業療法学科)
井上佳和 (理学療法学科)
岡部孝生 (理学療法学科)
畑田早苗 (作業療法学科)